



いじめから子どもを救う技術

文部科学省が昨年10月に発表した調査結果によると、2016年度に学校で認知されたいじめの件数は32万3,808件、前年度から実に約10万件も増加しました。いじめの定義の変更などのため認知件数の変化はありませんが、それでも日本中で32万人の子どもたちが、学校で苦しい思いをしたという事実は重く受け止めなければなりません。

上尾市でも、2016年度小学校で20件、中学校で33件のいじめが認められています。また、小学校で36名、中学校で154名の子どもたちが不登校の状態にあります。

このいじめの問題に新しい技術を活用して取り組んでいるのが、匿名報告アプリである「STOPit」を展開するストップイットジャパンの谷山大三郎さんです。STOPitとは、生徒の持っているスマートフォンからワンタッチで専門機関に直接いじめなどの報告・相談ができるアプリです（裏面をご参照ください）。

千葉大学で研究員としても活躍している谷山さんは、自らのご経験からいじめなどで悩んでいる子どもたちを救いたいとの思いから、海外で活用されているこのアプリを日本でも普及させるために尽力されています。

千葉県柏市では、導入から半年ですでに100件以上の報告や相談があり、うち9件は深刻ないじめでした。このアプリがなければより事態が悪化したことも考えられます。

いじめの根絶は難しいともいわれますが、傍観をしていることは許されません。新しい取り組みに私も参加していきます。



柏市で子どもからの相談を受ける担当者から説明



キーワード

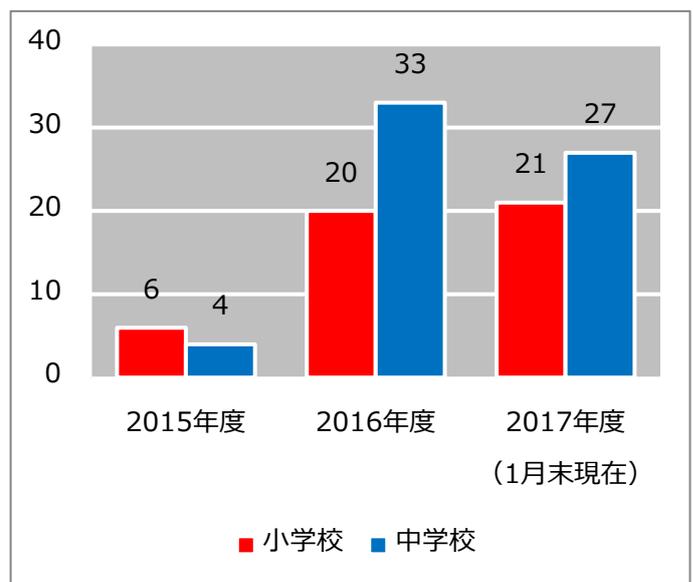
いじめの定義

2013年に「いじめ防止対策推進法」が制定され、行為がいじめであるかにかかわらず、子どもが「心身の苦痛」を感じているのであればいじめと認知することとされた。上尾市では2016年度にこの法律の趣旨の徹底を図ったため、それ以降認知件数が増加している。



データでみる

上尾市のいじめ認知件数





Point

いじめ報告アプリ「STOPit」とは

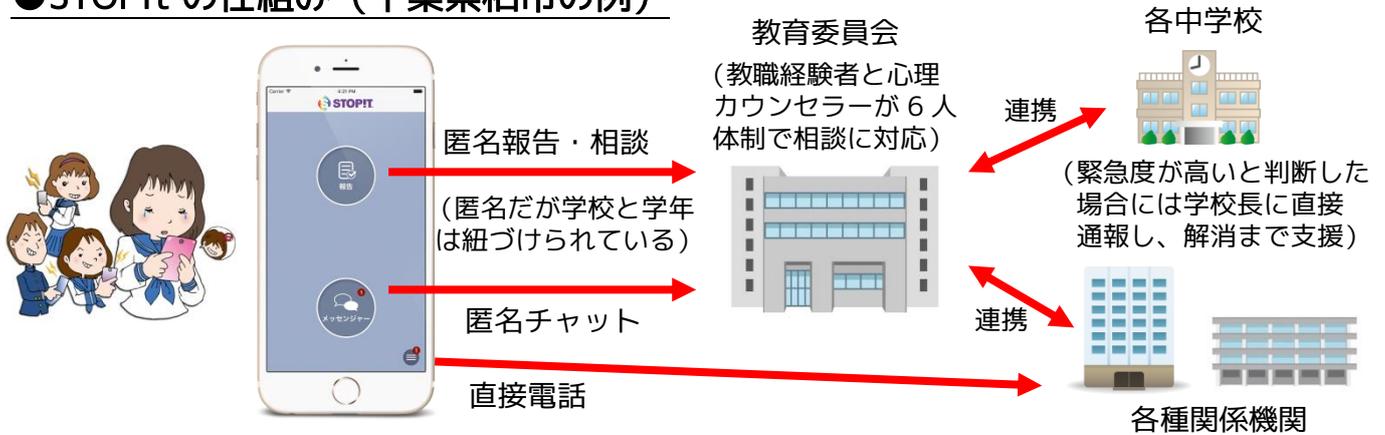
STOPit は、いじめの早期発見・早期対応のため、子どもたちが匿名でいじめの報告や相談ができるアプリです。

千葉県柏市ではこのアプリを市内 20 の中学校の生徒全員に提供しています。同時に、中学 1 年生を対象にいじめを「傍観者」の視点で考える授業を行い、いじめを許容しない雰囲気づくりにも取り組んでいます。本人だけでなく、周囲の子どもたちからもいじめについて手軽に匿名で報告ができることで、早期発見・早期対応が可能になります。



STOPit 代表の谷山さんと

●STOPit の仕組み（千葉県柏市の例）



活動報告



2018 年 1 月 14 日 消防出初式に参加

消防本部で行われた消防出初式に参加しました。日々の訓練の成果を披露してくださった消防隊や消防団の方々の姿に、私たち一人ひとりが常に防災の心構えを忘れてはならないのだということを改めて感じました。

●皆さまのご意見を聞かせてください●



メール
ebihara116@gmail.com



フェイスブック
<https://www.facebook.com/naoya.ebihara>

■えびはら直矢プロフィール■

昭和 62 年 12 月 3 日生まれ。

- 上智大学法学部卒
 - 首都大学東京社会人類学教室修了。
- 国連 UNHCR 協会職員などを経て、大島敦衆議院議員公設第一秘書を務める。

大学在学中に市民団体を設立し、現在子どもたちの放課後を考える団体や演劇教育を推進する団体など 4 つの団体の運営に携わっている。2017 年上尾市議会議員に当選。
家族：妻、長男（2 才）、長女（1 才）